

週休二日の実現に向けて



働き方を変える。建設業を変えていく。

これは、単なるスローガンではありません。必ず成し遂げるといふ宣言であり、約束でもあります。

小さな気付きや行動から、業界全体を変えていく。

一人ひとりの働き方を見直すことが、次世代の働き手を増やすことにもつながると思うから。

週休二日を。

誰もが笑顔で働ける未来を。すべての現場で実現していきます。



確かなものを 地球と未来に

一般社団法人 **日本建設業連合会 九州支部**

JFCC JAPAN FEDERATION OF CONSTRUCTION CONTRACTORS KYUSHU BRANCH OFFICE

〒812-0011 福岡市博多区博多駅前4丁目3-22 産恵ビル3階 TEL 092-451-6244 FAX 092-481-0941

編集・発行 総務広報委員会

一般社団法人 日本建設業連合会 本部・各支部

本部	〒104-0032 東京都中央区八丁堀2-5-1 TEL03-3552-3201 FAX03-3551-4954	中部支部	〒460-0008 名古屋市中区栄3-28-21 TEL052-261-3808 FAX052-261-4363	愛知・岐阜・静岡・三重
北海道支部	〒060-0004 札幌市中央区北四条西3丁目 TEL011-261-6243 FAX011-261-2528	関西支部	〒540-0031 大阪府中央区北浜東1-30 TEL06-6941-3658 FAX06-6942-4031	大阪・福井・滋賀・京都・兵庫・奈良・和歌山
東北支部	〒980-0014 仙台市青葉区本町2-2-3 TEL022-221-7810 FAX022-265-9465	中国支部	〒730-0051 広島市中区大手町2-11-15 TEL082-243-3017 FAX082-242-2380	広島・鳥取・島根・岡山・山口
関東支部	〒104-0032 東京都中央区八丁堀2-5-1 TEL03-3552-3208 FAX03-3552-3206	四国支部	〒760-0026 高松市磨屋町6-4 TEL087-851-6969 FAX087-851-3176	香川・徳島・愛媛・高知
北陸支部	〒950-0965 新潟市中央区新光町6-1 TEL025-285-8886 FAX025-285-8884	九州支部	〒812-0011 福岡市博多区博多駅前4-3-22 TEL092-451-6244 FAX092-481-0941	福岡・佐賀・長崎・熊本・大分・宮崎・鹿児島・沖縄

(一社)日本建設業連合会ホームページ
<https://www.nikkenren.com/>

日建連のホームページには、建設業に関する基本データ、戦後の建設業界の関連年表、全国の土木博物館一覧表、また、他では見られない迫力ある土木写真など、お役に立つ情報が満載です。ぜひ、アクセスしてみてください。

九州の建設業 [キーストン]

Keystone

vol.36
2020年2月発行

Keystone/キーストン 要石(かなめ石)の意。社会資本の整備を通じて当団体が、豊かな未来づくりのかなめとなるよう願いをこめて。



佐賀城本丸歴史館(写真提供:佐賀県観光連盟)

一般社団法人 日本建設業連合会 九州支部

Message

支部長ご挨拶



(一社)日本建設業連合会
九州支部 支部長

小森 浩之

〈鹿島建設(株) 執行役員 九州支店長〉

魅力ある建設産業を目指して

九州支部長の小森でございます。

本誌をご覧の皆様には当支部の事業活動につきまして、格別のご支援、ご協力を賜り厚く御礼申し上げます。

建設業界では、東京五輪・パラリンピックを目前に工事消化量が最盛期を迎える一方、就業者の高齢化と若年層の減少は深刻で、次世代の担い手となるべき若手技能労働者の確保が喫緊の課題となっています。

日建連では変革に費やす時間が限られているとの認識のもと、危機感をもって建設キャリアアップシステム(CCUS)の普及と週休2日実現という二大事業に取り組んでいます。

特に、若手入職者の期待に応えるためには建設現場における週休2日の更なる推進が重要であり、年間実労働時間が全産業平均に比べ大幅に上回る建設業の長時間労働の改善のためにも、「働き方改革」に積極的に取り組み、IT化・自動化などによって生産性向上を実現していかなければなりません。

このような状況の中、九州支部では「九州地方整備局様との意見交換会」や「けんせつ小町懇談・交流会」等を通じ労働環境の改善に取り組み、生産性の向上につきましても「建設技術講演会」や、各種講習会の開催などに取り組んでおります。また、学生を対象とした現場見学会やリクルーティング活動を継続して行い、若手入職者の増加に努めております。

近年、日本各地で自然災害が多発しておりますが、九州でも、豪雨、地震、火山による自然災害が頻発しています。熊本地震、九州北部豪雨、平成30年7月豪雨、令和元年8月の前線に伴う大雨等の災害の際、当支部は建設業の社会的使命を果たすべく支援要請に対応いたしました。今後とも即応体制の一層の強化を図りながら活動を推進し、激甚化する自然災害に備えたいと考えております。

建設業は、国民が必要とする生活と産業の基盤となる社会資本の提供役を担い、それらの適切な維持修繕・更新を担う国民に不可欠な産業であると確信しております。

皆様のご理解ご協力を賜り、建設業界の健全な発展と魅力ある建設産業づくりのために今一層のご支援を賜りますようお願い申し上げます。

九州の建設業 [キーストン]

Keystone

vol.36
2020年2月
発行

contents

九州ウォッチング

2 人を大切に、世界に誇れるさがづくり
〈佐賀県〉

日建連の取り組み

8 建設キャリアアップシステム

けんせつ小町

いつもイキイキ! けんせつ小町!

10 鉄建建設株式会社 九州支店
内間 志和さん

12 戸田建設株式会社 九州支店
高橋 沙季さん



市民現場見学会

来て、見て、感じてみよう! 土木・建築の魅力

14 親子現場見学会 熊本城復旧工事

15 土木工事現場見学会 熊本57号 滝室坂トンネル東新設(一期)工事

16 土木の日見学会 折尾駅周辺連続立体交差事業
福岡高速6号線工事

Report

17 現場実務勉強会

Special Event

18 けんせつ小町現場見学会

19 学校キャラバン 建設現場へGO

Report

20 〈令和元年(2019年)8月豪雨への対応報告〉
日建連、災害復旧支援に対応!

21 インターンシップ講演会

22 ・九州建設技術フォーラム2019
・土木の日ファミリーフェスタ2019

23 ・鉄道建設工事技術講習会
・災害防止総決起大会

24 ・意見交換会
・建設技術講演会

25 ・安全環境委員会活動



Outline

26 団体の概要

Information

28 会員・役員名簿



人を大切に、 世界に誇れるさがづくり

佐賀県



佐賀県知事

山口 祥義 (やまぐち よしのり)
昭和40年7月1日生まれ

■略歴

最終学歴 東京大学法学部
平成21年4月 長崎県総務部長
平成23年4月 総務省自治行政局
平成25年4月 株式会社JT総合研究所地域振興ディレクター
平成27年1月 佐賀県知事就任

はじめに

昨年8月の「令和元年佐賀豪雨災害」では、県内のいたるところで冠水や土砂災害、河川の護岸の崩壊などの被害が発生し、県民生活に大きな影響が生じました。

被災直後の危機管理の対応において、佐賀県では「人命第一で。対策は前広に幅広に。」という基本方針のもとに、多くの関係機関の方に発災直後から迅速に対応していただきました。

その中で、建設業の皆様におかれましては、地域を守る強い責任感から、被害の拡大防止に果敢に立ち向かっていただき心から御礼申し上げます。

復旧・復興に向けて、私は、「ひとりひとり」、「血を通わせる」、「最後の一人まで」という3つの姿勢を大切に、現場の想いをしっかりと受け止め、被災した方々が希望を持って前を向いて歩みを進めていけるよう全力で取り組んでおります。

今回の被災においては、これまでの河川改修による堤防の補強やダムによる洪水調整、排水機場の整備などにより、被害が軽減されており、社会資本整備の効果を改めて実感したところです。

県内全域にバランスよく人々の暮らす街があり、地域資源が点在する本県にとって、主要な物流・観光拠点を結ぶ幹線道路ネットワークの整備は、広域的な地域間交流の促進に加え、災害発生時の避難や救急搬送など「命をつなぐ道」としての大きな役割も担っています。

これからも、佐賀県のさらなる発展と、県民の方々の安全安心な暮らしを支える社会資本整備を推進していくとともに、未来の建設業のための人づくり、地域づくりを目指した取り組みを進めてまいります。

県土整備部の取り組み

1 安全・安心に暮らせる強靱な県土の実現

- 治水対策の推進
- 土砂災害防止対策の推進
- 海岸保全対策の推進
- 道路の防災対策の推進
- 道路の交通安全対策
- 建築物の耐震化の推進
- 水資源の安定確保の推進

2 経済活動や地域間交流の支援

- 広域幹線道路ネットワークの整備

3 快適で活力のある地域の形成

- 街路等の計画的な整備
- 都市公園の計画的な整備と利活用の推進
- 美しい景観づくり
- 地域に安心して住み続けられる住生活の実現
- 空き家対策の推進
- 生活圏内道路の整備
- 生活排水処理施設の整備促進と広域化の推進

4 社会資本の適切な維持管理・更新

- インフラ老朽化対策の推進
- 社会資本の適切な維持管理

5 県土の未来を創る人材の確保

- 建設業の担い手育成・確保

1 安全・安心に暮らせる強靱な県土の実現

【令和元年佐賀豪雨災害】

8月27日から28日にかけて九州北部で秋雨前線が停滞し、猛烈な集中豪雨により、低平地が広がる本県の地理的特性から広範囲にわたり家屋や農地などが浸水し、武雄市、大町町をはじめとする県内各地で床上・床下浸水が発生、被害家屋は6千棟を超えました。

佐賀市金立や武雄ジャンクション付近などでの土砂災害や、多くの場所で道路や河川の護岸が崩壊するなど、県内のいたるところで被害が発生。特に六角川流域においては、24時間雨量が観測史上最高を記録し、牛津川の堤防からの越水や支川の氾濫等による大規模な浸水被害となりました。

◀ 1 ▶ 六角川水系緊急治水対策

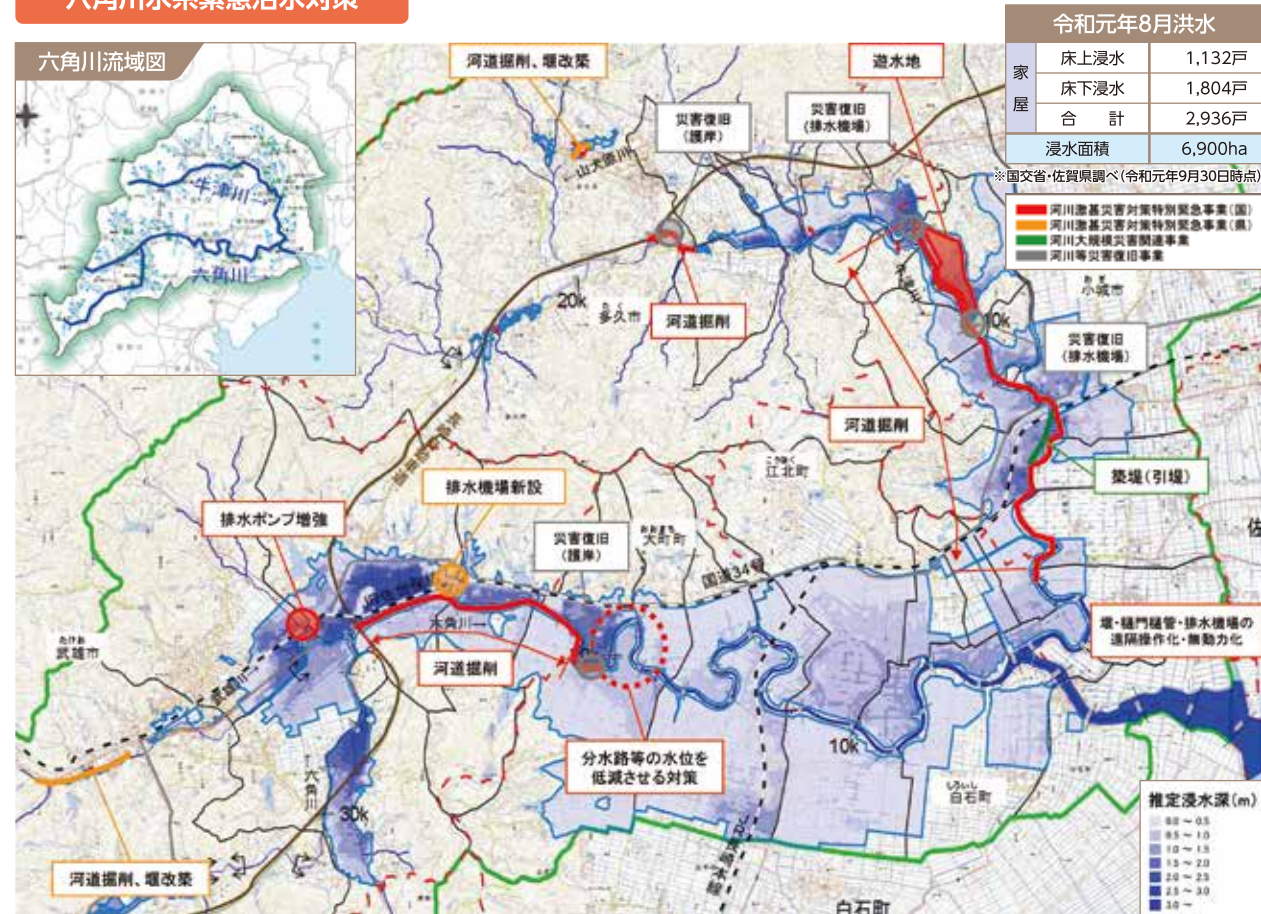
「令和元年佐賀豪雨災害」を受け、六角川流域では、地域特性や氾濫特性を踏まえた総合的な対応を図るため国、県、市町等が連携し、新たに「令和元年8月六角川水系の水害を踏まえた防災・減災対策協議会」が設立され、この協議会において令和元年8月規模の洪水に対し「逃げ遅れゼロ」「社会経済被害の最小化」を目指し、「六角川水系緊急治水対策プロジェクト」が取りまとめられました。

このプロジェクトを踏まえ、昨年12月には河川激甚災害対策特別緊急事業の採択を受け、国・県で連携して、今後概ね5年間で「緊急治水対策」に取り組んでいきます。

国においては、六角川水系六角川・牛津川で河道掘削や排水ポンプの増強、遊水池の整備等に取り組まれる予定です。

県では六角川水系武雄川・広田川・山犬原川において、河道掘削や堰の改築、排水機場の新築等に取り組んでいきます。

六角川水系緊急治水対策



出典：六角川水系緊急治水対策プロジェクト記者発表資料



九州地方整備局はるかぜ撮影 長崎自動車道武雄インターチェンジ付近

◀ 2 ▶ 金立川の土石流対策

「令和元年佐賀豪雨災害」において、佐賀市の中央部に位置する金立川では、流部の山腹が崩壊し土石流が発生しました。

この土石流により、集落内の橋梁部に流木等がたまり河道が閉塞されたことで、大きく水の流れが変わり、集落内の道路が損壊するなど大規模な土砂災害となりました。下流集落内では家屋の損壊が3戸、人家への土砂流入、集落内の市道の損壊、また上流部の林道崩壊、その他に水道管が破損して一時750戸が断水するなどの被害となりました。

この被害を受け、昨年末に関連緊急砂防事業の採択を受け、砂防堰堤整備に向けた調査・設計を進めており、下流部の溪流保全についても、今後一体的に取り組んでいきます。



◀ 3 ▶ 城原川ダムの整備

城原川では昭和24年、昭和28年の水害で堤防が決壊し「令和元年佐賀豪雨災害」においても、氾濫危険水位を約60cm上回る洪水が発生しており、常に堤防決壊による大災害の不安を抱えています。

城原川の下流から中流部は、いわゆる天井川となっており、ひとたび堤防が決壊すれば、地域全体に甚大な被害を及ぼすことになります。このため、地域の治水対策を進め、洪水氾濫による災害の発生防止又は軽減を図るため、国において城原川ダムの建設と下流の河川改修の一体的な整備に取り組まれています。

城原川ダム事業は、平成30年度に「建設段階」へ移行し、現在、国においてダム建設の具体化に向けて必要な調査が進められているところです。



氾濫危険水位を約60cm超！
令和元年8月出水状況(日出来橋・神埼市)

2 経済活動や地域間交流の支援

◀ 1 ▶ 広域幹線道路ネットワークの整備

●有明海沿岸道路の整備

有明海沿岸道路は、福岡県大牟田市から佐賀県鹿島市までの有明海沿岸の各都市と九州佐賀国際空港や三池港といった交通拠点との連携を強化する地域高規格道路です。有明海沿岸道路と佐賀唐津道路が接続する(仮称)佐賀ジャンクションを中心としたエリアを「Tゾーン」と呼んでおり、九州佐賀国際空港の利用圏域の拡大や佐賀県医療センター好生館への救急搬送の時間短縮としての役割を担うとともに、地域資源を活かした広域的な経済活動等の促進に大きく寄与するため、このエリアを重点的に整備していくこととしています。

●佐賀唐津道路の整備

佐賀唐津道路は、有明海沿岸道路や西九州自動車道と接続し、佐賀市と県下第二の都市である唐津市を結ぶ地域高規格道路です。この整備により、佐賀市、唐津市及び沿線の市の連携が強化されるとともに、九州佐賀国際空港の利用圏域の拡大や唐津港の利活用促進に寄与することが期待されています。

●西九州自動車道の整備

西九州自動車道は、伊万里港との連携により物流の効率化を支援するなど、県西部の発展に寄与しており、伊万里港では平成30年の外貿コンテナ取扱量が過去最高を更新するなど、今後の整備により更なる物流の効率化による地域経済への貢献が期待されています。



有明海沿岸道路(福富北IC~福富IC間 地盤改良・盛土)施工状況



有明海沿岸道路(大川佐賀道路 早津江川橋(仮称))施工状況

3 快適で活力のある地域の形成

◀ 1 ▶ 吉野ヶ里歴史公園の利活用促進

県東部にある吉野ヶ里歴史公園は、県の施策である「子育てし大県“さが”」の子育てフィールドとして、休日には多くの家族連れが利用しており、平成30年度の利用者数は2年連続で過去最高を更新しました。

当公園が持つ、「広場や遊び場などのレクリエーション空間」としての魅力を生かして、県内や福岡都市圏などの子育て世代へ伝えることにより、新たな集客と更なる利用促進を図っており、中学生以下のお子様の方を対象とした「入園料無料の招待券」や「年間パスポートの半額割引」や「花育」による子育て環境の創出等に取り組んでいます。

4 県土の未来を創る人材の確保

◀ 1 ▶ 建設業の担い手の育成・確保

建設業は、地域の安全・安心な生活を支え、地域を守る重要な産業であるため、地域に根差した建設業の安定的な担い手の育成・確保に向けた支援を進めていく必要があります。

そのため、建設業で働く若者が同世代間の交流や意識醸成を図るためのセミナーの開催や施工管理技士などの国家資格取得費用の助成などに取り組んでいます。

また、建設業に関連した学科で学ぶ高校生を対象に、佐賀県内の建設業者の合同企業説明会や建設業で働く若手就業者との意見交換会を開催し、県内建設業への就職を促す取組も行っています。

平成30年の夏には、土木のイメージアップの一環として、佐賀県の土木遺産等を題材とした企画展「すごいぞ!ボクの土木展」を開催しました。見て、聴いて、触って楽しめる体験型の展覧会で、多くの若者や親子連れでにぎわいました。



オープニングイベント



キネティックサンドとマッピング技術を使った砂場で楽しむ子どもたち

建設業の今とこれからをみんなで支える

建設キャリアアップシステム

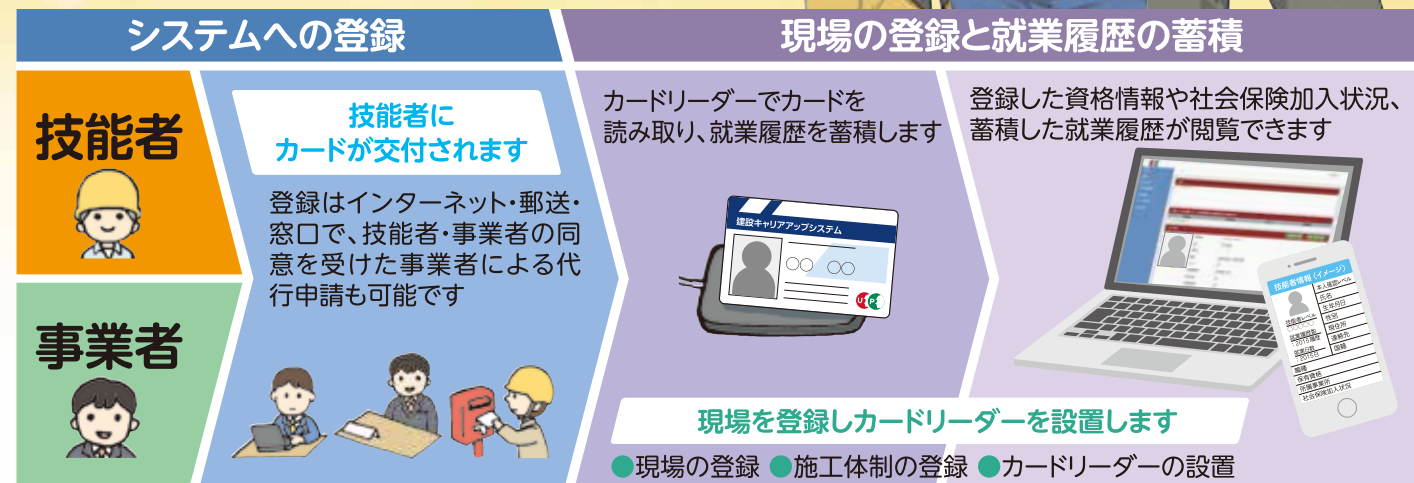
技能者の処遇改善をめざして 2019年度より本運用開始!

全国で現場の登録と 就業履歴の蓄積が可能になります

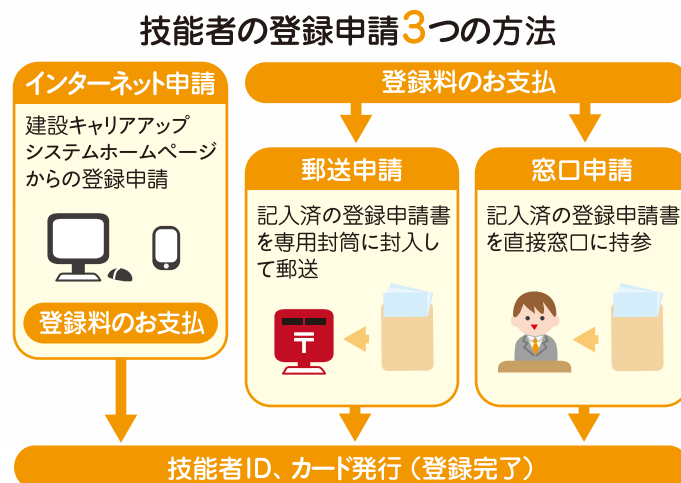
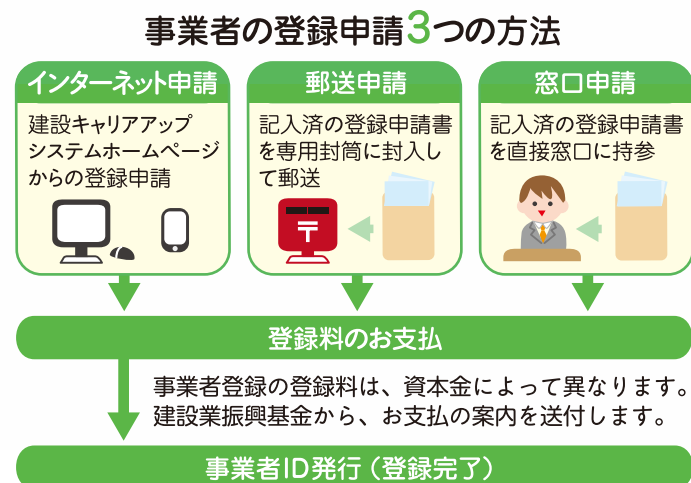
技能者の就業履歴を蓄積するために、元請事業者による現場・契約情報の登録、元請事業者と下請事業者が連携して行う施工体制の登録、カードリーダー等の機器を現場に設置するなど準備をお願いします。



システムの利用には 事業者、技能者の登録が必要です



登録申請用紙は窓口で配布のほかインターネットでもお取り寄せできます。お近くの窓口はホームページでご確認ください。



※それぞれ技能者又は事業者から同意を得た事業者が、本人又は他の事業者に代わり、代行申請する事ができます。

情報の閲覧・出力

事業者は、自社に所属する技能者の情報を技能者本人と同様に閲覧が可能で、技能者が入場中の現場にあっては工事期間中の情報に限り元請・上位事業者も閲覧が可能となります。他の事業者に対しては、技能者と所属事業者が認めた情報に限り閲覧を認めることが可能で、自社の施工力をアピールする目的などで活用できます。

施工体制台帳(イメージ)

元請会社名 建設業許可	元請の事業者 情報を反映	監督員等	下請負人に関する事項
工事内容等	現場情報を反映	社会保険等の 加入情報	元請の事業者 情報を反映
			下請会社名 建設業許可
			下請の事業者 情報を反映
			現場代理人等
			社会保険等の 加入情報
			下請の事業者 情報を反映

作業員名簿(イメージ)

氏名	職種	生年月日・現住所等	健康診断	社会保険	資格	受入教育日

技能者情報を反映

建設キャリアアップ システムがめざすもの

技能者一人ひとりについて日々の就業履歴とともに、資格取得など技能研鑽の記録をシステムに蓄積し、最終的にはそれぞれの技能者の評価が適切に行われ、処遇の改善に結びつけること、さらには人材育成に努め、優秀な技能者をかかえる専門工事業者の施工能力を見えるようにすること、また本システムが人材の育成評価に係る横断的な仕組みとなることをめざしています。



登録した情報の取扱い

システムに登録した情報は、所属事業者のほか、技能者本人が入場している現場の元請事業者や上位下請事業者にも共有されます。またシステムに登録したそのほかの事業者には開示の制限ができます。



個人情報の保護

登録いただいた技能者の情報は、建設業振興基金の個人情報に関する保護方針(利用目的、共同利用など)と法律を遵守し適切に取り扱います。なお、本人と所属する事業者の同意がない限り、その他の事業者は技能者の情報を閲覧できませんが、本人が就業している現場の元請や上位の下請事業者は閲覧できます。

協議会構成員

- 国土交通省 / 厚生労働省 / (一財) 建設業振興基金 /
- (一社) 日本建設業連合会 / (一社) 全国建設業協会 / (一社) 全国中小建設業協会 /
- (一社) 建設産業専門団体連合会 / (一社) 日本空調衛生工事業協会 /
- (一社) 日本電設工業協会 / (一社) 住宅生産団体連合会 / 全国建設労働組合総連合
- 【オブザーバー】 東日本建設業保証(株) / 西日本建設業保証(株) /
- 北海道建設業信用保証(株) / (一社) 全国建設産業団体連合会 /
- (独) 勤労者退職金共済機構

※このページは、「一般財団法人建設業振興基金」が運営する、建設キャリアアップシステムのホームページで公開・提供されている資料を加工して掲載しています。詳しくは、ホームページをご覧ください。https://www.ccus.jp

いつもイキイキ!

けんせつ小町!

「けんせつ小町」は建設業で活躍する女性の愛称です。

多くの人との協働で
構造物を完成させる。
そこに建設業ならではの
魅力や喜びがあります。

土木

うちまじより
鉄建建設株式会社 九州支店 内間 志和さん
2018年入社。沖縄県出身。九州工業大学工学部 建設社会工学科卒業。

- 現場情報
- 工事名称 2019年度災害復旧 熊本57号高尾野橋上部工事
 - 工事場所 熊本県菊池郡大津町
 - 施工企業 鉄建建設株式会社 九州支店
 - 工事概要 2016年熊本地震の影響で通行不能となっている国道57号の災害復旧事業として整備する北側復旧ルートの一環として、総延長13kmのうち、熊本県菊池郡大津町平川地先にて、高尾野橋上部工(延長L=113m)工事を片持ち架設工法で施工するPC2径間連続ラーメン箱桁橋の工事である。



①ドローンを手に撮影準備の確認を行う②高尾野作業所の渡邊信吉所長と山田倫大主任とともに③職長さんとの打ち合わせも仕事の一つ④工事の状況をパソコンで管理する

交通インフラへの関心が深まり 構造物の施工を手がける企業へ

建築に興味を持っていたことから、高校卒業後は、総合的に建設分野を学べる大学の学科へ進学しました。ただし大学では、土木系のコースを選択。これはコース選択前に先生方から土木の魅力を知ったこと、また、出身地の沖縄にはない新幹線や地下鉄などを利用したことで、日本の優れた「交通インフラ」に興味を持ったことが大きく影響しています。

また、在学中は建設会社でのインターンシップをはじめ、建設分野で働く先輩方との意見交換会など様々なことに参加。その際に施工管理業務のことを知り、構造物の竣工過程に携わりたいという思いが次第に強くなっていきました。そうして入社したのが、鉄道工事など広範な建設分野の事業を手がける鉄建建設でした。

やりがいを感じるのは測量通りに 構造物ができあがっていくとき

現在は、熊本地震の災害復旧に伴う高尾野橋の施工業務全般に携わっています。仕事としては、測量や写真撮影、安全管理などを担当しており、最近では、ドローンを用いて上空からの撮影も行っています。このほか、職長さんとの工事進行や必要資材に関する打ち合わせ、実際の工事を担当する方々への確に指示を伝えることも大切な仕事のひとつです。

仕事のやりがいを感じるの、図面をもとに自分たちで測量を行い、測量通りに構造物ができあがっていくとき。入社1年目に、九州新幹線西九州ルートの橋梁工事に携わりましたが、橋が中央でつながったときの感動は今も忘れられません。

スケールの大きな構造物であっても、大工・鉄筋工の方々の地道な作業、そして多くの人の協力によって完成へと着実に近づいていく…その過程に立ち会えることにも大きな喜びを感じます。

目標は1級土木施工管理の資格取得 そしてプライベートと仕事の両立

これからの目標は、まず2021年に1級土木施工管理の資格を取得することです。仕事としては、鉄道工事やトンネル工事なども手掛けてみたいですね。将来は、結婚して子どもも生まれると思いますが、結婚後はプライベートと仕事を両立させることも目標です。

男性が多い建設業界ですが、近年は、女性の活躍を推進し女性が働きやすい職場環境に改善する事で女性だけでなく、男性社員や外国人社員も働きやすい職場形成を促すダイバーシティが社内で進められています。これからの建設業に大きな働きがいがあることに間違いはありません。

興味のある女性の皆さん、一緒に建設業界を盛り上げていきましょう。



未来のけんせつ小町へ
MESSAGE

働きやすさも向上中ですの
やりがい大きな建設業を
一緒に盛り上げましょう

いつもイキイキ!

けんせつ小町!

「けんせつ小町」は建設業で活躍する女性の愛称です。

現場での経験を
これからも積み重ね
自身が成長する
糧にしたいです。



建築

たかし さき
戸田建設株式会社 九州支店 高橋 沙季さん
2016年入社。埼玉県出身。工学院大学建築学部 建築学科卒業。

現場情報

- 工事名称 (仮称)長崎市交流拠点施設整備・運営事業 MICE施設新築工事(15街区)(建築)
- 工事場所 長崎県長崎市
- 施工企業 戸田・上滝・谷川・森美 特定建設工事共同企業体
- 工事概要 / 長崎駅周辺まちづくりのメインとなる集会所建築物であり、長崎市初の本格的MICE施設(敷地面積20,622.000㎡、地下1階、地上4階)における鉄骨造による建築工事である。



①基礎地中梁の配筋作業の状況を説明②建築現場で作業所の岡山所長と③鉄骨柱のアンカー架台の取り付け作業を確認④安全帯に装着した現場作業道具の数々

意欲的に学んだ建築分野 研究室ではコンクリートを研究

いろんな建物を見るのが好きだったことが、建築分野を志した一番の動機です。高校時代、数学と絵を描くことが好きな私へ知人が「建築分野が合っている」と勧めてくれたことをきっかけに、建築を学べる大学へ入学しました。

在学中は、設計や建物の模型製作などを、意欲的に学んだことが思い出されます。また学年が進むと、材料系の研究室でコンクリート分野を研究しながら、建築分野の知識を深めていきました。就職について考えた際「建物に一番近いところで働きたい」と思い、ゼネコンを第一志望としました。卒業後は戸田建設に入社しましたが、私の出身中学校・高校の建築を担当したのが当社で、先輩社員の人の良さに憧れを感じたことが入社につながりました。

計画通りに仕事が進行した際に 味わう充実感・満足感がある

入社後は九州支店へ赴任し、今まで倉庫・社屋、店舗、病院、スポーツジム、学校などの建築現場で働いてきました。現在は、長崎駅に隣接する交流拠点施設の工事を担当しています。今回のような大規模建築工事の現場は初めてですが、現場係員として杭・型枠・コンクリート打設・左官工事の補佐といった仕事に携わっています。

仕事のやりがいを感じるのには、自分で計画したことがうまく形になったとき。たとえばコンクリート打設では事前に数量を計算し、打設スピードを考えてコンクリート打設計画をするのですが、計画通りスムーズに仕事が運んで無事に終了した時は、

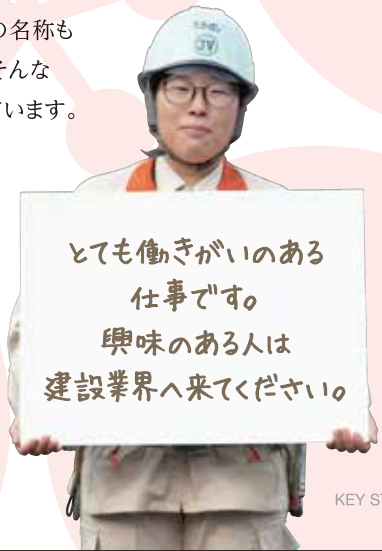
なんとも言えない充実感・満足感を覚えます。また、竣工した建物を引き渡す際に「施主様の喜ぶ顔」を見たときも、この仕事を選んで良かったと感じる瞬間です。

多様な仕事を体験しながら 資格にもチャレンジしたい

これから目指すのは、建築現場を円滑に運営できる人材になること。幸い、今までいろんな現場で経験を積んできました。これからはさらに現場の多様な仕事に触れ、また実際にやってみることで経験を積み上げ、成長の糧にしたいと思っています。併せて、キャリアアップのために1級建築士、施工管理者などの資格にもチャレンジしていく考えです。

仕事は確かに大変ですが、それは男性でも女性でも変わりませんし、その分やりがいも大きいと言えます。一つひとつの物件が異なるため、建築に興味のある人にとっては、これほど面白みのある分野はないはずです。ぜひ業界へ入って、力を発揮してください。将来、建設業界で女性が当たり前のように働き、現場を回し、活躍することで

「けんせつ小町」自体の名称も自然になくなっていく。そんな日が来ることを期待しています。



未来のけんせつ小町
MESSAGE

とても働きがいのある
仕事です
興味のある人は
建設業界へ来てください!

親子現場見学会

熊本城復旧工事

■開催日/2019年8月26日 ■場所/熊本県熊本市 ■施工企業/株式会社大林組



日建連九州支部では九州地方整備局や九州建設業協会などと共催で、お父さんの仕事場を見学してもらう「おやじの日」を設けています。今回はその一環として開催された見学会で、会員企業や協力会社の11家族22人が参加。2016年の熊本地震で被害を受けた熊本城の復旧工事を見学しました。

城内の二の丸駐車場に降り立った参加者は、まず3班に分かれて集合。それぞれのグループに付き添うガイドさんと一緒に、見学ルートを歩いて回るようになりました。2016年の熊本地震の様子をはじめ、熊本城の歴史、地震で受けた被害などをガイドさんから説明を受けつつ、歩を進めます。地震で倒れた塀、広場に置かれた石垣の大きな石、崩れた櫓、足場を組んで工事が行われている天守閣など、約20年後の完全復旧を目指して工事が進む、「今しか見られない熊本城の姿」を目に焼き付けていました。

現場見学を終えた後は、熊本城ミュージアムわくわく座へ移動。大迫力のパッチャル映像などを見ながら、熊本城の歴史などを学びました。見学中には写真を撮影したり、メモを取ったりする子どもの姿も…。夏休み終了直前でしたが、みんなが建設業の意義ある仕事を改めて認識した1日になったようでした。



復旧の進む熊本城を家族で見学



熊本城ミュージアムわくわく座で歴史を学ぶ



見学MEMO 2016年4月、前震と本震の2回の地震が発生した熊本。最大震度7を観測したこの熊本地震は、名城とうたわれる熊本城にも大きなダメージを与えました。重要文化財建造物(国指定)13棟をはじめ再建・復元建造物、石垣(崩落・膨らみ・緩み)などに被害が及んでおり、2038年度の全体復旧完了を目指して復旧工事が進んでいます(2019年秋、天守外観復旧が完了)。

土木工事現場見学会/小川工業高校

熊本57号 滝室坂トンネル東新設(一期)工事

■開催日/2019年10月30日 ■場所/熊本県阿蘇市 ■施工企業/大成・杉本特定建設工事共同企業体



熊本県阿蘇市では、阿蘇外輪山を貫く国道57号滝室坂道路における滝室坂トンネルの工事が進んでいます。この見学会に、熊本県立小川工業高校土木科の生徒たち27人が工事現場を訪れました。

生徒たちはまず現場事務所に入り、発注者である国土交通省九州地方整備局、設計を担当したコンサルタント、そして施工企業からそれぞれの役割や仕事概要、魅力ややりがいについての説明を受けました。特に遠隔操作による吹き付けなど最新の技術を駆使したトンネル工事には関心を引かれた様子で、質疑応答の時間には、「吹き付け後に水は出ないのだろうか?」「トンネルはどれくらいの期間で完成するのか?」など質問する生徒もいました。

昼食をとった後は、いよいよ工事現場の見学です。バスに乗ってトンネル内へ入り、途中から歩いて切羽と言われる工事の先端部分まで進みます。生徒たちは、完成後には歩いて入れなくなるトンネル内で、現場の雰囲気や工事状況を興味津々の様子で見学していました。ドリルジャンボなどの建設機械、支保工や水漏れを防ぐシートなどを見ながら、様々な知識を学んだ生徒たち。未来の仕事となるかもしれない建設業に対して、理解を深めた時間となりました。



トンネルの外へ出て避難坑も見学



建設機械の役割もしっかり学習



見学MEMO 延長約6.3kmの「国道57号滝室坂道路」は、大分県と熊本県を結ぶ地域高規格道路・中九州横断道路の一部を形成しており、災害発生時の代替道路確保、走行性の向上等を目的に整備されています。「滝室坂トンネル」は、そのうちの延長4.8kmの阿蘇外輪山を貫くトンネルで、波野工区は、波野側から坂梨側へ向けて4%の勾配で掘り進めています。

土木の日見学会 公募による見学会

折尾駅周辺連続立体交差事業 福岡高速6号線工事

■開催日／2019年11月19日 ■場所／折尾駅…福岡県北九州市、福岡高速6号線…福岡県福岡市
■施工企業／折尾駅周辺連続立体交差(見学地区)…九鉄・鹿島特定建設工事共同企業体



毎年11月、土木学会西部支部との共催で行われる「土木の日現場見学会」。今回は、公募による31人の参加者が2カ所の工事現場を訪問しました。

最初の見学は「折尾駅周辺連続立体交差事業」の高架化工事です。参加者は、事業内容や工事概要の説明を聞いた後、2グループに分かれて折尾駅周辺の工事を見学しました。鹿児島本線の建設中の高架橋の上からは、目前で進行中の工事をじっくり見学し、さらには高架化が進んだホーム上からも周囲を視察。建設中のトンネルの方向や街の様子なども見ながら、乗り換えが分かりやすく便利になる折尾駅に思いを馳せていました。

レストランでの昼食後は、福岡高速6号線の工事現場の見学です。参加者は工事の目的や概要、工事方法などを聞いた後に現場へ。上空に架かる橋桁を見上げたり、金属の橋脚に近寄って地中を覗き込んだりしながら、担当者の説明に聞き入っていました。最後は、バスに乗り込みアイランドシティをぐるり。高速道が伸び、整備の進む先進的な街並みを見回して見学は終了しました。

参加者は、普段立ち入れない土木工事現場や施設を目にし、また工事に伴う様々な知識を得たこともあって大満足の様子でした。



ホーム上から周囲をウオッチング



巨大な高架橋に目を奪われる参加者の皆さん



見学MEMO 折尾駅周辺連続立体交差事業は、折尾駅周辺の鹿児島本線・筑豊本線・短絡線の3鉄道における延長約4.5km間でのトンネル化・高架化を進め、鉄道に起因する市街地の分断や踏切による交通渋滞の解消等を図る事業です。福岡高速6号線工事は、香椎線からアイランドシティへと向かう延長約2.5kmの指定都市高速道路を新設する工事です。

現場実務勉強会

[立野ダム建設(一期)工事]・[熊本325号災害復旧 阿蘇大橋上下部工事]

熊本県阿蘇郡南阿蘇村／菊池郡大津町

熊本県阿蘇郡南阿蘇村

■開催日／2019年12月18日 ■主催／日建連九州支部積算資材委員会
■施工企業／立野ダム建設(一期)工事…西松・安藤ハザマ・青木あすなる特定建設工事共同企業体
阿蘇大橋上下部工事…大成・IHIインフラ・八方地域維持型建設共同企業体

日建連九州支部では建設に関わる若手技術者が、「国の施策や最新建設技術等の理解を深めるとともに、資質向上を図ることによって良質な社会資本を提供し、ひいては豊かな国民生活や産業基盤の充実に寄与する」ことをテーマに据えた、「2019年度第1回現場実務勉強会」を実施しました。

見学した工事現場は、「立野ダム建設(一期)工事」と「阿蘇大橋上下部工事」の2カ所。今回は、BIM/CIMやi-Constructionなどを活用した工事現場が見学対象となっており、会員企業の27人の若手建設技術者が、それぞれの工事現場に赴き、進行中の工事の概要説明を受けたり、現場を見学したりしながら最新技術を用いた生産性の高い建設の実務を学びました。

立野ダム建設(一期)工事



立野ダムは、白川沿川における洪水被害の防止を目的とした洪水調整専用ダム(流水型ダム)です。形式は曲線重力式コンクリートダムで、高さ約90m、堤頂長約200m、総貯水容量約1,000万m³の規模になっています。

熊本325号災害復旧 阿蘇大橋上下部工事



熊本地震によって崩落した旧阿蘇大橋の約600m下流で、国道325号災害復旧に伴う架替工事が進んでいます。架け替えられる阿蘇大橋は、橋長345m、最大支間長165m、橋脚最大高97m。2020年度開通の予定です。



けんせつ小町 現場見学会

- 開催日／2019年10月5日
- 場所／福岡歯科大学医科歯科総合病院
建替計画新病棟建設工事現場(福岡市)
- 主催／日建連九州支部
- 施工企業／清水建設株式会社

未来のけんせつ小町が 現場を見る、今と未来を語り合う。

日建連九州支部では第2回目となる、大学・専門学校の女子学生を対象にした「けんせつ小町現場見学会」を行いました。この見学会は建設業が国民の安全・安心、生活の利便性の向上に貢献していることに加え、夢とやりがいがあり、また誇りの持てる職業であることを理解してもらうことが目的。新たな担い手づくりに寄与することもテーマです。当日は、女子学生16人が参加。日建連けんせつ小町部会の会員5人と清水建設のスタッフが見学会・懇談会をサポートしました。

まずは工事作業所に集まった学生たちへ、現場で働く社員などスタッフを紹介。次いで、清水建設の会社概要、さらには工事の特徴や、工事の流れなど建築現場の説明が行われました。その後は、いよいよ現場見学。学生たちは1階や3階、地下などを移動し、鉄筋や柱、免震装置などの説明に耳を傾けていました。また、現場を出た後は、モックアップルームや外壁(外装)のモデルも見学して回りました。

見学の後は3グループに分かれての懇談会です。それぞれのグループで、「現場で大変なこと」「仕事の喜び」「海外の仕事」「就職活動のポイント」など様々な話を聞き、また質問を投げかけていました。約2時間半の会でしたが、建設業界の世界を見聞きたる学生たちの就職意欲も高まっているようでした。

- 1 まずは朝礼会場で現場のことを説明
- 2 建築工事の様子を見つめる女子学生たち
- 3 モックアップルーム(モデルルーム)も見学
- 4 日建連のけんせつ小町との懇談会



学校キャラバン 建設現場へGO

- 開催日／2019年10月10日
- 場所／白十字病院(仮称)建設工事現場(福岡市)
- 主催／建設専門工事業雇用促進・労働改善協議会
国土交通省九州地方整備局
- 施工企業／鹿島建設株式会社

業界の担い手候補の高校生が 現場を見学、建設作業を体験する。

日建連九州支部では、建設業界に関心を持つ高校生を対象とした「学校キャラバン 建設現場へGO」のイベントをサポートしました。このイベントは建設業界の担い手確保を目指し、高校生へ、建設現場見学と建設作業体験を通して、仕事ややりがいをアピールするためのものです。10月10日は、白十字病院(仮称)の工事現場に福岡県立福岡魁誠高校の1年生33人が集合。九州地方整備局の担当者による仕事の役割や魅力、また建設現場所長による施設や工事の説明を聞いた後、病院建築現場をぐるりと回って、どんな工事が行われているかを見学しました。

見学の次は専門工事作業の体験です。事務所前の広場には、「足場組立」「鉄筋組立」「ガス圧接」「型枠建込」「コンクリート打設」「建設重機操作」のコーナーがずらり。高校生たちは小グループに分かれて、各作業を体験しました。ベテラン工員の素早い作業に驚いたり、作業の難しさに戸惑ったり…。「重機操作が楽しかった」とは女子生徒です。また、作業体験後は、専門工事業者さんとの意見交換会も行われました。

10月8日にも実施し29人が参加!

2019年(令和元年)10月8日には、安川電機テクノロジーセンター建設工事現場で、「学校キャラバン 建設現場へGO」が実施され、福岡県立鞍手電徳高校・工業技術系列(工業全般コース)の2年生29人が参加しました。

- 1 まずは事務所建設業界を説明
- 2 建築現場をぐるり歩いて見学
- 3 バックホウの操作に挑む女子生徒
- 4 コンクリート打設も体験中

令和元年(2019年)8月豪雨への対応報告

日建連、災害復旧支援に対応!



写真提供:九州地方整備局

大雨の状況

8月27日(火)から、前線の活発な活動により九州の広範囲に雨域がかかり、長崎県、佐賀県、福岡県を中心に大雨となりました。広範囲にわたる大雨の結果、九州内20の一級水系のうち、5水系で氾濫危険水位を超過し、六角川流域では、岸川雨量観測所等の主要観測所において、近年の主な出水を上回る雨量を観測しました。

そのような中、佐賀県大町町にある鉄工所から大量の油が流出しました。

災害対応

日建連九州支部では九州地方整備局との災害協定に基づき、約9万枚の油吸着マットの調達支援を行いました。

九州地方整備局の調査・対応

〈大町町の浸水状況調査〉



〈オイルフェンス設置状況〉



〈排水ポンプ車による排水活動状況〉



写真提供:九州地方整備局

インターンシップ講演会

■主催/長崎大学 ■開催日/2019年11月27日 ■場所/長崎大学



2019年インターンシップ講演会の講師を2社から派遣!

日建連九州支部は毎年、長崎大学工学部工学科社会環境デザイン工学コースの要請によって会員企業から社員を派遣し、「インターンシップ講演会」で講演を行っています。

これは、就職を控える学部学生および大学院生に対し、土木事業に携わる建設業者やコンサルタント業者、公務員の「生の声」を届け、進路決定に役立ててもらうために企画されたイベントです。

2019年度は(株)熊谷組と三井住友建設(株)から、社員が講師として派遣され、建設業界に関心を持つ学生たちに建設業や自社業務の紹介、また仕事のやりがいなどについて説明しました。

参加者の声(感想文から抜粋)

今回のインターンシップ講演会では、建設業・コンサルタント業・公務員の3業種、6つの会社より各業種の概要を説明して頂きました。私は以前までは公務員志望でしたが、ちょっと考えが変わってきて他の業種についても興味があったため、今までより真剣に講義を聞くことができました。まず、建設業の方の職場説明がありました。特に印象に残ったことは、土木事業のコンセプトである「いつものあたりまえを、いつまでも」という考えです。土木の業界では使用され始めてから数年たった後に本当の価値がわかるという話を以前、別の方から説明して頂きましたが、この考えのもとに人々の生活のうちで気づかないようなレベルで安全や居心地の良い空間を作り出すことができるといふことにも魅力を感じました。また、建設業といえば外勤のイメージが強かったのですが、実際には現場以外にも設計や研究開発、営業といった多岐にわたる仕事があることがわかり、より詳しく知りたいと思いました。今回のインターンシップ講演会は、より詳しく自分の将来について考えることのできる良い機会となりました。 社会環境デザイン工学コース/前田 悠社

熊谷組の手塚さんの講演の際の「様々な条件の下、都度受注して単品の構造物を作る」という言葉が強く印象に残った。一つ一つが一品もので、一つとして同じものではない、ということに土木構造物の特別さを感じられた。建設現場は施工の最前線というのやっぱり格好良いと思った。熊谷組にいらっしゃる女性の現場若手職員さんの1日の様子を、教えてもらったことが嬉しかった。現場巡視、環境測定、測量、計測など現場の仕事はやはりいろいろあるのだとわかった。熊谷組はトンネルの施工実績が大きい、トンネル工事にもAIが関わってきているのだとわかった。遠隔吹き付けなど、現場で作業するよりもずっと安全になっていてすごいと思った。また、三井住友建設でもドローンを使っての測量を行うなどICTの浸透が今回の講演で感じられた。三井住友建設はPC橋を約4400橋も造っていることに驚いた。橋だけでなく、いろいろな構造物で日本初の高さに挑戦しているというのすごいと思った。商業施設、アウトレットと「まちの顔を作る」という言葉が印象に残った。また、日本だけでなく海外の橋や地下鉄まで施工している、幅広く仕事を行っていることがわかった。新入社員の配属が決まるまでのスケジュールを知ることができたのも良かった。会社にもよるが、三井住友建設の場合は10月に配属されるまでに現場研修を3回行うと説明されて、思っていたよりジョブローテーション制度など配属には気がつかれていることもわかった。 社会環境デザイン工学コース/高木 奏美

(株)熊谷組さんと三井住友建設(株)さんの2つの企業からお話を聞きました。自分が建設業希望ということもあり、一番真剣に話を聞かせて頂きました。まず熊谷組の方に、ゼネコンという職業についていろいろ話を聞きました。ゼネコンのことは、今までいろいろな企業に話を聞いたり、先生からも話を聞いていたりしたので仕事の流れは知っていることが多かったのですが、「QCDS&E」という言葉が一番印象に残った言葉でした。また、その中でも自分が好きだったのはE:環境管理(Environment)でした。ただ、建物を建てるだけでなく環境の保全・維持もゼネコンの仕事なのだ改めて感じる事ができました。三井住友建設さんは海外での仕事の話や新人教育の話までしてくださり、将来を見ずえるお話を聞くことができました。ここに入ったら、こういう生活でこういう仕事ができるのかと具体的な将来を考えることができ、興味を持って聞かせて頂きました。より建設業に就きたいと感じさせてくれるようなお話でした。ありがとうございました。 社会環境デザイン工学コース/大山 知起

九州建設技術フォーラム2019

■主催/九州建設技術フォーラム実行委員会ほか ■開催日/2019年10月8日・9日 ■場所/福岡国際会議場



九州建設技術フォーラムは、新しい建設技術の開発・活用・普及促進をより効果的に図るために、「産」「学」「官」が、それぞれの新技術の開発・活用の取り組みについて情報を発信・交換するイベントです。技術情報のプレゼンテーションや展示、新技術相談などの形をとりながら連携を深め、九州における建設技術の更なる発展を目指して毎年開催されています。

2019年度は「技術の力で、防災・減災、そして国土強靱化へ」というキャッチフレーズのもと基調講演のほか、ブース展示、プレゼンテーション、ポスターセッション、新技術相談・i-Construction相談などで様々な情報を提供。当日は、日建連会員企業をはじめとする建設企業に加え、行政、工業系の学校、研究機関などから約3,000人が来場しました。なお、日建連九州支部は「リクルーティングプレゼンテーション」で、大学生・専門学校生・高校生たちへゼネコンの意味、建設業界の構造などを説明。また、建設現場の映像も見せながら建設業の魅力をアピールしました。



土木の日ファミリーフェスタ2019



■主催/福岡地区土木の日実行委員会 ■開催日/2019年10月20日 ■場所/海の中道海浜公園(大芝生広場)



「土木の日ファミリーフェスタ」は、土木事業を身近に感じながら理解して頂くため11月18日の「土木の日」にちなんで開催されるイベントです。2019年度も、「体験しよう!土木のちから!」をキャッチフレーズに実施。イベントエリアには建設機械乗車体験コーナー、高速道路パトロールカー展示、ミニ実験・クイズラリー、土木を学ぶパネル展、お菓子つかみどりなどのコーナーが並びました。日建連九州支部は独自のブースで「災害復旧活動」や「週休二日導入の取組み」をPR。災害復旧活動では、熊本地震支援対応、九州北部豪雨支援対応、そして2019年の豪雨災害支援対応などの工事写真をパネルで紹介しました。

なぜ11月18日は土木の日なの?
 なぜ11月18日になったかという、2つの理由があります。1つは、土木という漢字をそれぞれ分解すると「土は十と一」「木は十と八」になるからです。もう1つは、社団法人「土木学会」の前身にあたる「工学会」の創立日が、明治12年11月18日なので、昭和62年にこの日を「土木の日」と決めました。

パネル展示で災害復旧支援対応などの諸活動をアピール!

鉄道建設工事技術講習会

■主催/日建連九州支部・鉄道建設本部 ■開催日/2019年9月12日 ■場所/福岡県中小企業振興センター



鉄道は、大量・高速・定時性を有する安全安心な輸送手段として、地球環境保全やエネルギー問題への対処、少子高齢化への対応等の観点から、21世紀においても促進整備への期待は大きいものがあります。しかし熟練技術者の大量退職時代の到来、鉄道工事量減少などもあって必ずしも鉄道工事経験者を鉄道工事現場に配置できる状況にありません。また鉄道工事を取り巻く環境も工期・工費・品質確保、施工環境ともに厳しさを増すなか、施工者側のみならず監督側も現場管理業務が多様化・多忙化し、現場業務の鉄道建設固有技術継承も希薄化の傾向にあります。

そこで日建連鉄道建設本部では、将来にわたって健全な鉄道構造物を提供するためには鉄道特有の建設技術に精通した技術者育成が不可欠という認識のもと、「鉄道建設工事技術講習会」を2019年度も開催しました。九州会場は、更新講習・一般講習受講者の84人が参加。「鉄道建設工事固有の技術と留意点について」など3テーマで講習が行われました。



災害防止総決起大会

■主催/日建連九州支部安全環境委員会 ■後援/福岡労働局 ■開催日/2019年11月11日 ■場所/福岡国際会議場



建設業における労働災害は長期的には減少傾向にありますが、死亡者数は依然として全産業の中で占める割合が高く、憂慮すべき状況は変わりません。そこで九州支部では年末年始の災害防止活動として11月に「災害防止総決起大会」を福岡労働局の後援のもと開催し、労働災害の撲滅を期しています。2019年度は小森浩之支部長、福岡労働局労働基準部安全課の小野裕己課長の挨拶に続き3講演が行われました。

福岡労働局労働基準部安全課の秋本雄一産業安全専門官による「建設業における労働災害の防止について」から開始。次に九州地方整備局企画部の福原茂技術検査官が「建設工事の安全管理への取り組みについて」を、安全衛生大会教育講師の林谷英一氏が「魔さか!ヒューマンエラーを防ぐには~エラーを起こす「3つの“魔”」とエラーを防ぐ「1つの“間”&リスクアセスメント」の講演を行いました。最後に尾崎光義安全環境委員会第1小委員長が、引田守安全環境委員会委員長へ決意表明を読み上げ大会は幕を閉じました。



意見交換会

■主催/日建連九州支部 ■開催日/2019年11月28日 ■場所/第三博多借成ビル



毎年、日建連九州支部では国土交通省九州地方整備局と「意見交換会」を開催しています。2019年度は23人が出席し、提案テーマをもとに意見交換が行われました。会の冒頭では小森浩之支部長が、「週休二日制の実現には発注者の理解促進、適正な受注活動の徹底、労働賃金の抜本的改善を図ることが不可欠。従来の慣行を捨てる覚悟で現場管理の思い切った見直しが必要」と力強く挨拶されました。

これに対し、「働き方改革と生産性向上をさらに強力に推進しなければならない。現場の諸問題を解決・改善することが必要で、また受注者・発注者が連携して課題に取り組むことが重要」と九州地方整備局の堂園俊多企画部長が挨拶。続いて、九州支部が「現場における諸課題の改善に関する提案テーマ」「入札契約制度等に関する提案テーマ」を説明し、九州地方整備局はこのテーマに対する回答を行いました。その後には「自由討議」も実施され、約2時間にわたって活発な意見が交換されました。

建設技術講演会

■主催/日建連九州支部 ■開催日/2019年12月16日 ■場所/福岡国際会議場



建設技術講演会は、建設業に関する技術の進歩と経営の改善を推進し国民生活と産業活動基盤の充実に寄与することを目的に、建設業に関する専門的知識の習得および研鑽を図るために開催されています。

2019年度は小森浩之支部長の「建設業の再生には、担い手の確保と生産性の向上が不可欠。健全な発展と若者に魅力ある業界を目指し、危機意識を持って取り組みたい」という挨拶に続いて、4講演を実施しました。まずは、九州地方整備局の堂園俊多企画部長による「建設業における最近の話題」という講演を皮切りに、九州地方整備局企画部の寺下進一機械施工管理官が「i-Construction最新の取組状況について」を説明。次いで、建設業振興基金建設キャリアアップシステム事業本部 普及促進部活用支援課の渡辺麻子業務推進役(課長)が「建設キャリアアップシステムの運用について」、最後に九州地方整備局建政部の天方正彦建設産業調整官が「建設分野の外国人材の受け入れについて」の講演を行い、講演会は終了しました。

安全環境委員会活動

現場点検の実施状況および講習会の開催状況

〈2019年度 安全環境委員会の主要活動〉

部会別区分	現場点検			講習会受講者	
交通	1回	3現場	6名	1回	86名
地下埋	0回	0現場	0名	1回	55名
火薬類	1回	1現場	6名	1回	54名
環境	2回	7現場	14名	1回	70名
計	4回	11現場	26名	4回	265名



2018年度 表彰現場

〈本部表彰現場〉

火薬類対策優良現場



- 株式会社フジタ九州支店
- 中尾トンネル作業所
- 長崎自動車道 中尾トンネル工事
- 発注者/西日本高速道路(株)九州支社

〈本部表彰現場〉

火薬類対策優良現場



- 前田建設工業株式会社九州支店
- 平底トンネル作業所
- 宮崎218号平底トンネル新設工事
- 発注者/九州地方整備局

〈支部長表彰現場〉

環境対策優良現場



- 株式会社竹中工務店
- (仮称)香椎照葉5丁目計画A棟新築工事作業所
- (仮称)香椎照葉5丁目計画A棟新築工事
- 発注者/西日本鉄道(株)、三菱地所レジデンス(株)、京阪電鉄不動産(株)



団体の概要

■一般社団法人日本建設業連合会

■設立

(社)日本建設業団体連合会(旧日建連)、(社)日本土木工業協会(土工協)、(社)建築業協会(建築協)の三団体は、2011年4月1日に合併し、(社)日本建設業連合会(日建連)として新たに発足しました。また、2013年4月に一般社団法人に移行しました。建設業界が大きな転換期を迎えつつある今、建設業団体としての機能を一層強化・拡充し、建設業の発展に向けた活動をより強力に展開してまいります。

■目的

日本建設業連合会(日建連)は、日本を代表する総合建設業者を主な構成員とする団体です。日建連は、建設業に係る諸制度をはじめ、建設産業における内外の基本的な諸課題の解決に取り組むとともに、建設業に関する技術の進歩と経営の改善を推進することにより、わが国の建設産業界の健全な発展を図り、もって国民生活と産業活動の充実に寄与すること、を目的としています。

■会員

日建連は、建設業界の連合組織であり、正会員である団体会員と法人会員、および特別会員によって構成されています。

- 法人会員…一定規模以上の総合建設業者
- 団体会員…主に総合建設業者で構成する事業者団体

さらに、日本国内で事業活動を行っている外国の建設業者及び、建設業に密接に関連する事業を行っている法人を対象にした特別会員制度も設けています。2020年2月1日現在の会員数は、正会員142社・5団体、特別会員7社です。

■役員

総会において理事、監事が選任されます。任期はそれぞれ2年となっています。協会活動の円滑な運営を図るため、理事会の決議により会長、副会長、事務総長、専務理事、常務理事を置いています。

■機関

事業を推進するため、次の機関を設置しています。

①総会

定時、臨時の2種類があり、定時総会は毎年4月に開催されます。事業計画、収支予算、役員の選任など協会活動の基本的な諸事項について審議、決定します。

②理事会

通常、毎月1回開催され、総会に付議する事項や総会の議決を要しない会務に関する事項を審議、決定します。

③事業本部および委員会

協会活動の中心となる調査研究組織であり、2つの事業本部と2つの特別委員会、28の委員会を設けています。委員は会員各社から募り、建設業に係る諸問題について調査研究活動を行っています。

④支部

全国9地区に支部を設置しています。支部には、支部長、副支部長、運営委員、監査委員を置き、本部の活動方針に基づく活動を行っています。

⑤事務局

本部、支部それぞれに事務局を設置しています。

■九州支部の概要

■設立

当支部は、本部の合併により、2011年4月1日から(社)日本建設業連合会(日建連)の九州支部となりました。また、2013年4月に一般社団法人に移行しました。支部の活動は、引き続き従来どおりの活動を行うとともに、3団体合併の主旨に則り、建設産業全体の健全な発展へ向けた諸活動をより強力に展開してまいります。

■会員

支部の会員は「九州地区において本社・支店等を有し建設業を経営する業者で、かつ、本部会員である者」に限られています。

また、九州地区に本社・支店等がなくても、本部正会員であれば、支部の会員になることができます。

したがって企業規模・技術水準・社会的信用などあらゆる面で真に業界を代表するに足る企業によって構成されている団体です。

会員数は2020年2月1日現在で59社を数えています。

■役員

支部長は総会において、支部長候補者の了承後、会長から任命されます。副支部長は総会で選任された運営委員の互選により支部長が任命します。副支部長は9名を置いています。監査委員は総会において推薦者の了承後監事が指名します。任期はそれぞれ2年となっています。

■事業

本支部は次のような事業を行っています。

- ①災害対策への対応
- ②公共工事の円滑な実施
- ③安全・環境対策等の推進
- ④請負契約制度の改善及び積算の適正化と資材対策の推進
- ⑤技術開発の推進
- ⑥電力施設建設事業、鉄道建設事業、海洋開発建設事業の推進
- ⑦広報活動の推進

■委員会

支部活動の中心となる調査研究機関として、広く会員から委員を募り、総務広報委員会、契約委員会、積算資材委員会、電力委員会、鉄道委員会、安全環境委員会、建築委員会を設置しています。

■沖縄支所

沖縄地区での活動を実施するため、1996年6月から沖縄に支所を置いています。支所に所属する会員数は43社を有しています。

一般社団法人日本建設業連合会九州支部会員

(五十音順 2020年2月1日現在59社)

ア

アイサワ工業(株)九州支店
青木あすなろ建設(株)九州支店
あおみ建設(株)九州支店
(株)浅川組九州営業所
(株)浅沼組九州支店
(株)新井組九州営業所
(株)安藤・間九州支店

イ

岩田地崎建設(株)九州支店

ウ

梅林建設(株)

オ

大木建設(株)九州支店
(株)大林組九州支店
(株)大本組九州支店
(株)奥村組九州支店
オリエンタル白石(株)福岡支店

カ

鹿島建設(株)九州支店
鹿島道路(株)九州支店
株木建設(株)九州支店

キ

九鉄工業(株)

ク

(株)熊谷組九州支店

コ

広成建設(株)九州支店
(株)鴻池組九州支店
五洋建設(株)九州支店

サ

佐藤工業(株)九州支店
三軌建設(株)

シ

清水建設(株)九州支店
ショーボンド建設(株)九州支店

セ

西武建設(株)九州支店
(株)銭高組九州支店

タ

大成建設(株)九州支店
大成ロテック(株)九州支社
大日本土木(株)九州支店
大豊建設(株)九州支店
(株)竹中工務店九州支店
(株)竹中土木九州支店

テ

鉄建建設(株)九州支店

ト

東亜建設工業(株)九州支店
東急建設(株)九州支店
東洋建設(株)九州支店
戸田建設(株)九州支店
飛島建設(株)九州支店

ニ

西松建設(株)九州支社
日特建設(株)九州支店
日本国土開発(株)九州支店

ノ

(株)ノバック九州支店

ヒ

(株)ピーエス三菱九州支店

フ

(株)福田組九州支店
(株)フジタ九州支店
(株)不動テトラ九州支店

ホ

(株)本間組九州支店

マ

前田建設工業(株)九州支店
松尾建設(株)

ミ

三井住友建設(株)九州支店
みらい建設工業(株)九州支店

ム

村本建設(株)九州支店

モ

(株)森本組九州支店

ヨ

(株)吉田組九州支店
寄神建設(株)九州支店

リ

りんかい日産建設(株)九州支店

ワ

若築建設(株)九州支店

役員

(2020年2月1日付)

支部長	鹿島建設(株)九州支店長 小森 浩之	副支部長	清水建設(株)九州支店長 堤 義人
副支部長	西松建設(株)九州支社長 吉田 卓生	"	(株)安藤・間九州支店長 大西 亮
"	梅林建設(株)社長 梅林 秀伍	"	鉄建建設(株)九州支店長 魚谷 和亮
"	大成建設(株)九州支店長 川村 信司	"	(株)大林組九州支店長 引田 守
"	(株)熊谷組九州支店長 梶山 雅生	"	(株)鴻池組九州支店長 興 柁 博己

運営委員	青木あすなろ建設(株)九州支店長 福本 聖史	運営委員	日本国土開発(株)九州支店長 草野 康成
"	(株)奥村組九州支店長 大角 透	"	(株)フジタ九州支店長 河端 巧
"	九鉄工業(株)社長 古賀 徹志	"	前田建設工業(株)九州支店長 尾付野 誠
"	五洋建設(株)九州支店長 下石 誠	"	松尾建設(株)社長 松尾 哲吾
"	佐藤工業(株)九州支店長 中村 豊彦	"	三井住友建設(株)九州支店長 柴田 雅俊
"	(株)銭高組九州支店長 曾我部 修一	監査委員	大日本土木(株)九州支店長 中山 努
"	(株)竹中土木九州支店長 松本 和豊	"	東急建設(株)九州支店長 久田 浩司
"	戸田建設(株)九州支店長 窪田 浩一	"	(株)不動テトラ九州支店長 濱野 尚則
"	飛島建設(株)九州支店長 曾我部 真也		